

## 「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>項目2の利用率向上について、超高速ブロードバンドサービスを低廉な料金で提供するには事業者間の競争が必要となっていますが、どのような競争状態が必要なかが明確ではありません。</p> <p>光を普及させるには、ケーブルのみならず、地下管路、電柱、接続BOX、接続装置、保守装置等が必要になってきます。これらの整備について競争させるのであれば意味があるのでしょうか、競争の後、民間事業者が整備した後になって、公平性だと言って開放せよと言うのであれば、民間事業者の設備投資意識が薄れるばかりか、設備保守についても影響があると思います。</p> <p>保守料金として正当な料金が見込まれたとしても、大規模災害時、国家危機の場合等、誰が主となって復旧するのでしょうか？</p> <p>民間と公共の立場を場合により使い分けたような話では納得できないし行政不信が募るばかりです。結局、税金で全て面倒見ることになって、上手くすり抜けた事業者だけが利益を持ち去ることになるような気がしてなりません。</p> <p>利用料金の低廉化と言いますが、日本は世界的にも超高速ブロードバンドの最安値水準だと思います。それでも普及率が低いのは、魅力あるサービスが提供されていないからだだと思います。</p> <p>注力するのは、住民が必要とするサービス、なくてはならないサービスを自治体等が積極的に導入し、情報立国日本と言える姿を作ることだと思います。</p>

	<p>最後に、公共水道にしても普及率 100%ではないですし、下水道は目も当てられない状況です。このような中で、なぜ、民間が提供しているサービスについて 100%を目指すのかが分かりませんし、NTT の組織形態が影響するとは思いません。</p>
--	--